

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain 豊島 健治

金融トピックス(97/10)

「ドラゴンショック」世界を駆ける

「今日のグローバルな資金の流れは、恐るべき不安定要因である。それは一国の経済を破滅的な状態に陥れる」(P・F・ドラッカー「未来への決断」)。今回の「世界同時株安」は改めて「貪欲」で「臆病」な巨額のマネーが世界を駆け巡ることの怖さを認識させた。

香港ハンセン指数の暴落は、それ自体「買われ過ぎたアジア」の反動であり、バブル化した香港不動産市場のこれからの大幅な調整を予測する動きだと思う。それが世界へ飛び火したのは、「ブラックマンデー10年」で高所恐怖症にあって調整をしたがっていたニューヨーク市場が敏感に反応したからだろう。

とすればニューヨークは調整はあっても暴落はない。しかしアジアはそうはいかない。香港はこれからも乱高下を繰返し、アジアは相当厳しい状況を迎えるものと予想する。

銀行決算、4種に分裂?

住友銀行が東京三菱に続き大量の不良債権償却を実施、今3月決算で大幅赤字を計上することを発表した。予想されたことでニュース性はないが、同行も不良債権引当率が100%を超え「健全性」をアピールした。

こうした意味で、今3月銀行決算は非常に注目される決算となる。おそらく、赤字にする銀行 赤字になる銀行 黒字にする銀行

黒字になる銀行、と色分けが鮮明となるだろう。この範疇に入る銀行は、益々厳しい状況に追い詰められることになる。

長期金利、未踏の領域に

10月も長期金利は一段と低下した。国債指標銘柄の利回りは1.5%台に突入し世界金融市場例のない未踏の低金利領域に入った。

この低金利が「正常」なのか「異常」なのか議論の別れるところだが、教科書的にいえば「長期の投資で2%以上利益を出せる対象がない」ことをこの長期金利は示している。果たしてそうだろうか? 日本経済の自信のなさを示しているように思えてならない。

さくら銀行、休日営業

合併銀行の悲しさか競合都銀にはるかに置いていかれてしまったさくら銀行が土日・祝日も午前9時から午後5時迄窓口業務を行うことを発表した。平日も営業時間を午後3時から午後7時まで延長するそうだ。前回も広島銀行の動きを書いたが、当然の動きと思う。

来年から首都圏・近畿圏の5店を皮切りに順次対象店を拡大していくようで、おそらく他の銀行も追随するだろう。こうした銀行間のサービス競争が、利用者の視点で繰広げられれば歓迎されるだろう。

関西第二地銀4行再編

10月9日、福德銀行となにわ銀行の合併が発表された。追って14日、京都共栄銀行が兄弟銀行である幸福銀行に営業譲渡して解散することが発表された。これは、関西のいわゆる「問題銀行」の処理策がようやく整ったことを意味する。しかし、この大蔵主導とされる二組の再編で問題が終結するのは疑問である。

当局は、この再編を改正預金保険法適用第1号とし、大幅なリストラを実施させたい考えのようだが、極度の不振銀行同士を一緒にしても問題解決には限界があるとの見方が大勢である。この処理策も、市場では当局得意の「問題先送り」と認識されている。

貸出資産圧縮ラッシュ

大手銀行が一斉に貸出資産の圧縮に走っている。新聞によると、その額は今年度主要20行で15兆円に及び、貸出残高の5%にもなるという。貸出資産を圧縮する理由は、度々触れて恐縮だが、不良債権償却で減少する自己資本比率を高めるためである。大手銀にとって自己資本比率8%超維持は生存の絶対要件であるからだ。だから見栄も外聞もなくやる。

貸出資産圧縮の方法は、不採算融資を上げる等貸出金を直接回収する方法、貸出債権を証券化して機関投資家に販売する方法、貸出債権をリスクアセットの少ない貸出に切替える方法、等がとられるようだが、いずれにしても「規模の拡大」を指向した銀行経営からは撤退せざるを得ないのが現状である。

こうした流れは地域金融機関にも及び、借

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain 豊島 健治

入依存度を低下させることが必要となってくる。